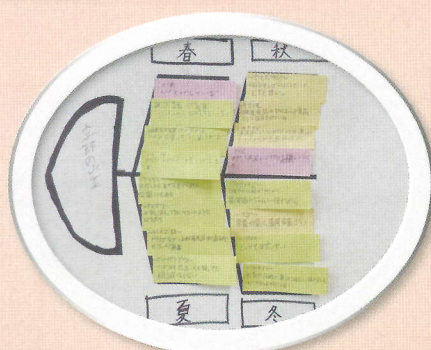
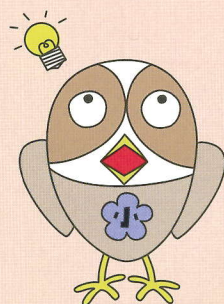
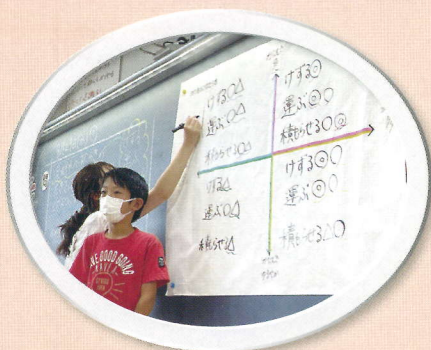


研究主題

友達とよりよく問題解決しようとする児童の育成



【はじめに】

校長 仁科 光一

本校は、令和3・4年度の豊島区教育委員会研究開発指定校として「友達とよりよく問題解決しようとする児童の育成」の研究に取り組んでまいりました。また、令和3・4年度の秋田県能代市教育連携校の指定を受けて、児童と教員の交流も進めてまいりました。これらの取組は、本校の教育目標である「よく考える子」の具現化と現行の学習指導要領で掲げられている「主体的・対話的で深い学び」へのアプローチを目指したものです。

本研究では、PDCA サイクルで子供たちの学びが協働的で持続的に発展していくことを願い、「対話」を軸としながら「思考」「評価」「表現」をキーワードに、単元を中心としたカリキュラムマネジメントによる授業改善を行ってきました。ここに2か年にわたる研究の一端をまとめましたので、各学校の教育実践にお役立ていただければ幸いです。

最後に本校の研究を支え、ご指導をいただきました 早稲田大学教職大学院教授 田中 博之 様、教育環境研究センター代表 井ノ山 正文 様をはじめ、豊島区教育委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。



令和5年 1月 27日(金)
豊島区立池袋第三小学校

研究構想図

学校教育
目標

よく考える子 思いやりのある子 じょうぶで元気な子

児童の
実態

基礎的な学力は定着している。
新しい課題に関心をもって
粘り強く解決する力があるが、
考えに明確さや根拠がないので、
話し合いが苦手である。

社会的
背景

学習指導要領
「主体的・対話的で深い学び」
豊島区教育ビジョン2019
「確かな学力」「学びの応用力の伸長」
「カリキュラムマネジメントの推進」

研究主題 『友達とよりよく問題解決しようとする児童の育成』

研究
仮説

学びの中で友達との対話を効果的に成立させる方法を身に付け、「思考力・判断力・表現力」の資質を向上させることで、一人一人の考えが組み合わさり、建設的に練り上げられて問題解決が可能になっていくものと考えられる。

目指す
児童像

対話を通して、自分や友達の考えを広げたり深めたりして、
よりよく問題解決しようとする児童

低学年

伝え合うことを楽し
み、自分の思いや考え
を広げられる子

中学年

互いの考えの共通点や
相違点に着目して話し合い、
自分の思いや考えをまとめ
ることができる子

高学年

互いの立場や活動の意図を
明確にしながら話し合い、自分
の思いや考えを広げたり、深め
たりすることができる子

研究の
内容

単元における問題解決の過程

生かす・つなぐ

まとめる

広げる・調べる

つかむ

対話 思考
表現 評価

対話 思考
表現 評価

対話 思考
表現 評価

対話 思考
表現 評価

*単元の展開に沿った学習活動のまとまりの中で、
対話・思考・評価・表現を重点化する。
*問題解決の過程は教科の特性により文言が異なる。

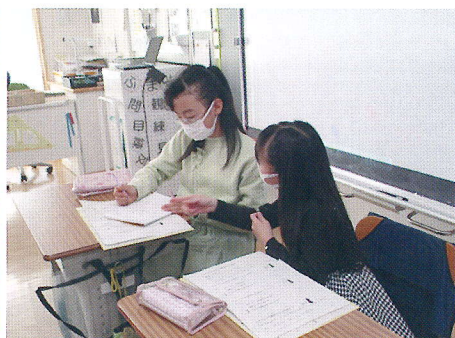
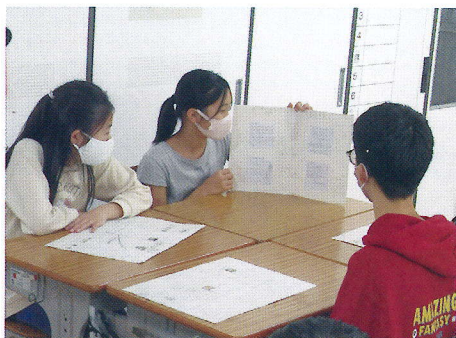
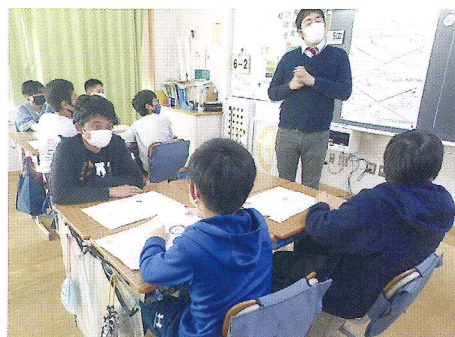
研究の視点

友達との対話の場面を「つかむ・広げる・まとめる・生かす」等、それぞれの学習過程で意図的に組み込むことで、よりよい問題解決につながると考えた。本研究では、その中でも友達との対話について特に重視し、各学年の指導案に明記した。

対話を活性化するためには、児童の考えを可視化する必要がある。思考ツールを活用することで、思考の操作が可能となり、比較や整理がしやすくなると考えた。

P
対話

D
思考



A
表現

C
評価

学んだことを整理したりまとめたりした結果を、友達に伝えるための表現の場を設定する。自らの思いや考えをどのように伝えるかを工夫し、自己評価・相互評価をすることで表現力が高まると考えた。

ルーブリックを活用して毎時間の学習活動のねらいを明確にし、振り返りを積み重ねることで、自己調整力を身に付け、次の学習への解決策を見つけていくことができると考えた。

低学年 体育科

1年 走の運動遊び
「いけさん☆にんじゃ～はしるのまき～」

2年 マットを使った運動遊び
「いけさん☆にんじゃ～スーパーにんじゃをめざして～」

学習の仕方を知ろう

つかむ



「いけさん☆にんじゃ」として、運動遊びを楽しむことを知り、単元の導入に紙芝居を聞くことで、学習の流れやゴールを見通す。

ビンゴを目指して、楽しみながら学習を進めようとする。

短いアクションや言葉だけでも、同意や共感を示すことができるように「ハンドサイン」「反応あいうえお」を使う。



いろいろな走り方を試して遊ぼう

アイテムカードにあるスキップ よこむき
ばんざい で走ってみよう！



動きの工夫を考える時に、アイテムカードを使用し、視覚的に動きの共有を図り、対話を広げる。

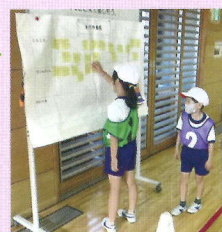
ビンゴカードに丸を付けて、自らの伸びを確認したり、次の時間の見通しを明確にしたりする。

学習カードに振り返りを書き、自分の思いや考えを表現する。

いろいろな動きを知って遊ぼう

新しい動きを見つけて、名前を付けたよ！

アザランだったら、横転がりかな。



広げる・調べる

グループでオリジナルしゅぎょうコースを考えよう

岩を置く位置を変えると
もっとすばやく動けるかな。



うごき ようぐ はしりかた
の中で、どのカードを組み合わせると、
おもしろいコースになるかな。

ビンゴカードを活用し、グループ
で作った「オリジナル修業コース」
を振り返る。

おもしろいコースができたね。

グループでお話マットを考えよう

グループでどんな動きを
発表したいか考えよう！



「お話マット」の流れを考える
ために、ステップチャートを作成し、
グループで考えを共有する。

ビンゴカードを活用して、
自分の学びを振り返る。

どの動きをつかえば、川を
越えているみたいかな。

まとめる

他グループのコースも走ってみよう

このグループの組み合わせ方が
おもしろいね。



他グループのコースを見合い、どの
ような工夫をしたのか聞いたり、
実際に走ったりして楽しむ。

これまでの学習を振り返り、新しい
気付きや発見、もっとやってみたい
コースについて学習カードにまとめる。

発表会をしよう

他グループの発表を見て、楽しい
ところや工夫しているところを友達に
伝えたり、振り返りに書いたりする。



これまでの学習を振り返り、できる
ようになったことや、新しい気付き
について学習カードにまとめる。

生かす・つなぐ

中学年 国語科

3年 進行を考えながら話し合おう 「はんで意見をまとめよう」

よりよい話し合いについて考えよう

児童が話し合いの姿を客観的に捉えられるように、教師が演じた悪い話し合い・よい話し合い例の動画を視聴する。

2つの話し合い動画から、よいところを見付け、ポイントを整理してまとめる。

動画から見付けた話し合いのポイントを学習カードにまとめ、話し合いの自分のめあてを決める。



4年 役わりをいしきしながら話し合おう 「クラスみんなで決めるには」

話し合いチェック表をつくろう

普段の自分たちの話し合いの様子と代表委員による話し合いの動画を比較し、よい話し合いについて考えたことを伝え合う。

動画から見付けた話し合いのポイントに基づき自己評価・相互評価のためのチェック表を作成する。

単元の流れをステップチャートで確認しながら学習の見通しをもつ。



1年生の読み聞かせの本をグループで選ぼう

1年生に合う本の条件を決めよう！

話型や司会台本を活用して、話し合いの中で自己表現する。

よい話し合いができたかどうか、チェックシートを基にグループで振り返る。

一人一人が選んだ本をピラミッドチャートで一冊に絞る。

1年生に合う読み聞かせの本を決めよう！



役割を意識しながらグループで話し合おう

目的に沿って、「〇〇」について話し合おう

役割を意識しながら、目的に沿って話し合いをすすめる。

話し合いのよい点や改善点をグループで話し合い、次の活動に生かす。

話し合いチェック表を活用して、話し合いグループのよい点や改善点をまとめる。



話し合い活動についてまとめよう

グループで選んだ本を紹介し、なぜ選んだかの理由を伝え合う。

1年生の時に読んで「おもしろいな」と思って、他のシリーズも読みました。だから1年生も本好きになると思います。

話し合いによって本が決められたかどうか、グループで相互評価した後、それを基にチェックシートで自己評価する。

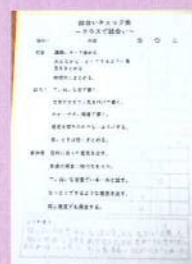


グループでの話し合いを振り返ろう

話し合いのもっとよくしたいところはどこだろう。

前時までの学習を振り返り、チェック表の項目の追加・修正をする。

もっとよくしたいところについて、自分の作戦を考える。



話し合い活動についてまとめよう

今回の話し合いでできなかったことを直して、次の学級会ではできるようにしたいです。

チェックシートや友達の発言を基に、自分の成長やこれからの学習に生かしていきたいことを発表する。



クラスみんなで話し合おう

学習した話し合い方を生かして、それぞれの役割を果たしながらクラスみんなで話し合う。

ワークシートやチェック表を基に、よい話し合いをするために必要な内容をまとめる。



高学年 社会科

5年 情報社会に生きる私たち 「情報を生かして発展する産業」



気象情報は、わたしたちのくらしとどのような関わりがあるのだろう。

学習問題をつくろう

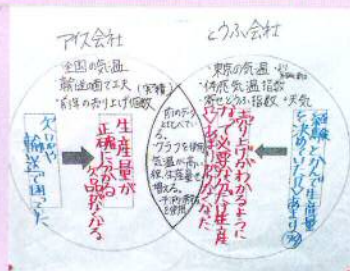
学習計画を立てるために、グループで話し合う。グループで表を使い、「予想」と「調べること」を明確にしていく。

単元を通した教師側のルーブリックを基にした学習カードで、身に付けたい力を確認し、改善する。

学習カードを活用して、「つかむ」で身に付いた力を振り返る。

アイスクリームをつくる会社、とうふをつくる会社は、気象情報をどのように利用しているのだろうか

学習カードで、この時間に身に付けたい力を確認する。



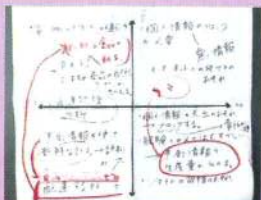
ペン図で共通点と違いを明らかにして、グループで整理する。

学習カードを活用して、「調べる」で身に付いた力を振り返る。

情報を活用するよさや課題は何か考えよう

これまでの学習を振り返り、情報を活用することで、どのようなよさや課題があったかを座標軸を使って分類する。

予測情報を活用して、いつでも新鮮な食品を届けていたね。



これからも情報を生かしていくために大切なことを考えよう

思考ツールを活用し、これからも情報を産業で生かしていくために、消費者側、産業側からの立場で考えた大切なことを文章で表現していく。

学習カードを基に、自分に身に付いた力を確認し、次の学習に生かす。

6年 日本の歩み 「戦国の世の統一」

学習カードを活用して、「つかむ」で身に付けたい力を確認する。

問いを基に学習問題を全体で話し合う。

学習問題から学習計画を立て、ステップチャートに表すことで、学習の見通しをもつ。



織田信長・豊臣秀吉はどのようなことをして、どんな世の中を目指したのだろうか

「鉄砲を使った」は戦いのことだね。



個人で調べたことを友達との対話を基にXチャートに付け足してまとめ、観点を視覚的に捉える。

天下統一に大きく貢献した武将はどちらだろうか

「私の推し」の武将の業績をミニカードに書き、推しのまとめシートを作成する。

私の推しのまとめシートは推したい観点が踏まえられているかな？



友達と意見を交流し、自分の考えを深めよう

天下統一に大きく貢献したのは、〇〇だと思う！



学習を振り返り、次の学習の学び方につなげよう

これまでの「つかむ」「調べる」「まとめる」の各段階の学び方を、次の単元の学び方につなげる。

オンライン交流会



淳城西小研究授業 動画協議会



池三小ICT活用授業を紹介



教員間の交流

【池三小→淳城西小】
ICTを活用した授業や
活用の仕方を伝え、教員
間で意見交換しました。

【淳城西小→池三小】
研究授業の動画を全教職
員で視聴し、授業の基礎
基本とともに教師が児童
の言葉をつないで納得解
を練り上げていく過程を
学びました。



令和3・4年度

能代市・豊島区
教育連携
事業

研究姉妹校・ 能代市立淳西小学校との交流

能代市の魅力を紹介



感想を交流



能代市へ遊びに
行きたいです！

豊島区の魅力を紹介



能代市の農業・自然など紹介



児童間の交流

5年生

【池三小→淳城西小】
豊島区の文化財や施設、
魅力をプレゼンテーション
で発表しました。

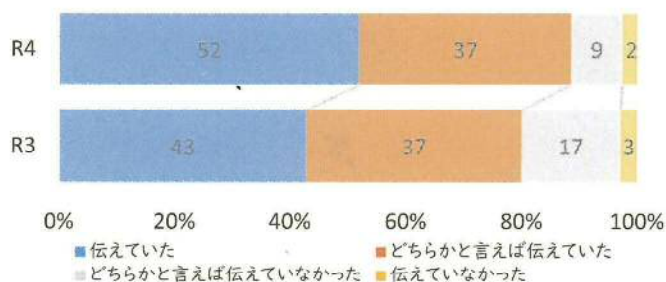
【淳城西小→池三小】
能代市の農業や自然環境、
おすすめのお店などを紹介
しました。



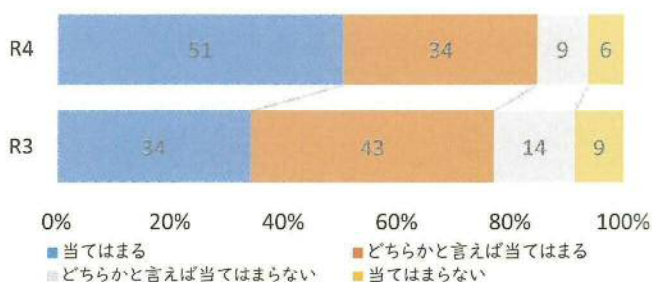
成果

学習での話し合いや自分の考えを深めることについてのアンケート (令和3年度3月：5年生対象 令和4年度11月：6年生対象)

①友達との間で話し合う活動では内容を理解して相手の考えを最後まで聞き受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた。



②授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた。



- ・グラフ①から、肯定的な回答が前年度の80%から約10ポイント増え、否定的な回答が20%から約10ポイント減ったことが分かる。このことから、対話の課題設定や対話の方法を工夫したことで、友達のことをよく聞こうとする態度が身に付いてきたと考えられる。また、聞いた内容を踏まえて自分の考えを伝えようとする児童が育ってきたと言える。
- ・グラフ②から、肯定的な回答が前年度の77%から10ポイント増え、否定的な回答が23%から8ポイント減ったことが分かる。このことから、児童が学習過程を把握できるようにし、ルーブリックを基にめあてを明確にして学習したことで、課題の解決に向けて自ら取り組むことができる児童が増えたと言える。

課題

- ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章・話の組み立てなどを工夫して発表していますか」という質問には、28%の児童が「当てはまらない」と答えている。今後は各教科で表現する力を更に培っていくとともに、学習したことをどのように工夫して表現していくかを明確にすることが課題と考える。
- ・ルーブリックは、教師が毎時間の学習活動のねらいと評価の基準を明確にすることに有効であるが、その作成には時間をかけて練り上げていかなければならない。また、その内容でよいのかどうかの判断が難しく、研究を深めていく必要がある。

おわりに

副校長 岡崎 由季

日頃の授業では、なかなか改善しきれない「評価」を指導計画の中で効果的に取り入れていこう、という視点で始めた研究です。手探りの中で単元計画を見直し、「ルーブリック」と「学習カード」を関連付けながら授業を作り上げました。

講師 田中 博之 様には、研究の姿勢も含めて沢山のことをご教授いただきました。また、井ノ山 正文 様には、人間関係を基盤とした対話の重要性を教えていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。本研究が、ご参会いただいた皆様の授業改善のスパイスになれば幸いです。